六つのとき、原始林のことを書いた「ほんとうにあった話」という、本の中で、すばらしい絵を見たことがあります。それは、一匹のけものを、のみこもうとしている、ウワバミの絵でした。これが、その絵のうつしです。

その本には、「ウワバミというものは、そのえじきをかまずに、まるごと、ぺろりとのみこむ。すると、もう動けなくなって、半年のあいだ、ねむっているが、そのあいだに、のみこんだけものが、腹のなかでこなれるのである」と書いてありました。